

まじゅん

沖縄県精神保健福祉士協会 88号

編集責任者 西銘 隆 (田崎病院)
編集者 石川 淳 (あらた舎)
比嘉 哲也 (オリブ山病院)
送信者 兼浜 克弥 (なんくる)
E-Mail oki.psw@gmail.com

2013年6月定例会報告

日時：平成26年6月28日(土) 9時～13時

場所：新垣病院 自立訓練事業所ラポール

テーマ：PSWが変われば沖縄の精神医療福祉が変わる
～ICFストレングスに学ぶ人の捉え方～

講師：神谷牧人氏 (株)アソシア CEO

参加数：30名

【定例会の概要】

ICF(国際生活機能分類)について振り返り、ICFの視点、特にストレングスへの着目を重視したうえで、実際の事例を通し、グループで課題・解決方法を話し合い着目の仕方等を学んだ。

【感想】報告者：川添貴大 もとぶ記念病院 地域支援室

今回の定例会はとても希望のあるテーマで、興味津々で参加をさせていただきました。講師である神谷氏の話聞いたことは、私にとって大変貴重なものになったと感じています。

相談業務等で支援する中で、私自身、固定観念や支援者側の視点でしか考えていなかった部分があるのではと、今回の定例会を通して自分自身を振り返ることが出来ました。どこかでその人の可能性を制限せず、その人が持っているストレングスや着目する視点を変えるだけで、支援者として、その人の持っている物や幅が更に広がる事、神谷氏の言葉をお借りするなら「人として当たり前の視点」を持つ事がとても重要な事だと感じる事が出来ました。

こういう視点を持つ事は当然のような気もしますが、もしかすると、どこかでその視点を忘れてしまうのではと思うので、自分のスキルとして身に付けて支援に役立てたいと強く感じています。

野中式アセスメントも実際に行い、抽象的に伝えられた内容を、様々な質問の中から全体像や人物像を把握していき、ストレングスに着目した支援を考えていく流れも学べ、職場でもすぐ使えるものであり、よりよく支援していけるのではと感じました。

「もう一度、日々の業務からPSWとしての視点を見直し、ストレングスへの着目の仕方・視点を意識する。」こういうことが沖縄の精神医療福祉、もしくは神谷氏がおっしゃる世界を変えていけるのなら、これからも意識してチャレンジしていきたいと感じました。

またこの様な機会があれば、ぜひ参加したいと感じました。今回は貴重なお話を頂き、本当にありがとうございました。

2014年7月定例会報告

日 時：平成 26 年 7 月 26 日(土) 10 時～12 時

場 所：沖縄国際大学 13 号館 308 教室

テーマ：オーストラリアビクトリア州における保健・医療・福祉制度の仕組み
～母子保健、ファミリーバイオレンス、メンタルヘルスサービスを中心に～

講 師：名城健二氏 沖縄大学 准教授

【概 要】

精神疾患発症の予防は、母子保健福祉の視点が必要であり、保護者が抱える生活上の問題を早期に緩和・解決に向けた支援が可能となれば、保護者の抱えるストレスを軽減し、子どもに与える悪影響を最小限に抑えることができる。精神疾患の発症リスクの軽減、虐待の予防、貧困の連鎖を断ち切ることも可能になるだろう。そこで、母子保健サービスが国際的にも進んでいるビクトリア州のメルボルンでの調査の結果を医療保険、母子保健センター、虐待への対応・予防についてスライドを交えての報告。

【感 想】報告者： 長嶺将大 サマリヤ人病院

今回の定例会で私が特に日本との違いを感じたものは母子福祉センターでした。日本の母子保健センターは大規模で設備が整っており、人員もしっかりと確保されているものが多いですが、オーストラリアでは小規模で地域に多数あり、職員は数名や一人の配置で、よりコミュニティレベルで母子をサポートしているそうです。退院後 1 週間以内に全家庭を訪問し、0～3 歳半まで 10 回の個別検診があります。驚かされたのは、このセンターへは病院から本人の意思に関係なく母子の情報が提供されることです。プライバシーを重んじる日本では考えられないことですが、虐待予防という視点から見ると良いかもしれないな、と思いました。

オーストラリアと日本では、財政や文化の違いや宗教観、アルコールやドラッグに対する考え方なども影響して福祉政策の違いが出ていけると感じることができました。予防に力を入れた政策や子どもを支える家族への支援、地域レベルでの取り組みを日本でも取り入れていくことで、虐待死等の痛ましい事件等が減っていき精神疾患の予防に繋がるとどんなにいいだろうと感じました。

【感 想】報告者： 砂川佳代子 糸満晴明病院 地域医療相談課

「オーストラリアビクトリア州における保健・医療・福祉制度の仕組み～母子保健、ファミリーバイオレンス、メンタルヘルスサービスを中心に～」というテーマで沖縄大学の名城健二准教授にお話ししていただきました。オーストラリアビクトリア州ではコミュニティーに一つ母子医療センターがあります。出産して病院を 2 日で退院後 1 週間以内に母子医療センターの Maternal & Child Health Nurses (母子保健看護師) が家庭訪問します。そして 0～3 歳半までに 10 回の個別検診があり、子どもの成長・発達段階、母親のメンタルの状態やファミリーバイオレンス(児童虐待と DV)、生活上の問題などに介入し地域の各専門機関との連携をしていきます。このようにこどもが誕生してすぐに介入し、しっかりサポートしていくことで後に起こるであろう様々な問題を回避することができると思います。非常に参考になるシステムだと思いました。

2014年8月定例会報告

日 時：平成 26 年 8 月 23 日（土） 13:00～15:00

場 所：沖縄国際大学 13 号館 3 階教室

テーマ：我が国の精神保健医療福祉の方向性

講 師：岩上洋一氏 非営利活動法人じりつ

参加数：約 60 人

【概要】

前半は講師による講義。後半は支援経過報告を含めたパネルディスカッション。

【感想】 報告者：那須聖史 博愛病院 訪問看護

当院の訪問看護は土曜日勤務のため、私個人での定例会への参加はほぼできていません。しかし今回は博愛病院が会場係にもなっていましたので、年休を利用して参加を行いました。

岩上さんの講義では法律の一部改正に伴い、退院支援、地域定着支援、権利支援、病床削減をすすめていくには、もっとあたりまえに、自然に医療と福祉が連携する必要性あり、それらが求められる理由について、岩上さんと利用者さんとの関わりのエピソードをまじえて講義していただきました。岩上さんの関わったケースの経過や、その人とのエピソードの中での気づきが話されていく中で、それが法律改正後の支援における大切なポイントに繋がる、面白い講義でした。私個人では講義を聞いて精神保健医療福祉の流れを広く捉えるためには、自分自身が支援している一人一人の当事者の気持ちや思いに寄り添う事の大切さを改めて振り返れました。ただニーズに対応するのではなく、ニーズの背景や、その人の気持ち、事情に興味をもって関わる事は、人と「何か（関係性でも、活動上でも）」を想像、継続させていくのに、あたりまえの事なのですが、いざ仕事として関わりの経過を振り返ると、福祉、医療、支援、という、あくまで表面上の役割ある一つの部分だけが強調された経過となって、一番重要な本人の思いや、これまでの事情が、どこか置いてきぼりにしてしまっている場面もある、と自身の日常の業務について反省をすることもできました。

当事者がその場所において、何らかの支援を受けているのには、それにともなった理由があるはず。「病院にいるから」、「地域にいるから」、「病気があるから」、「困っているから」という単一的で表面上の状況や制度や法律上だけから人をみてしまうのは、その方の、これまでの人生を理解するのに、とても浅い理解であると感じます。その人に深く関わったからこそ、問題に対して何らかの支援を行った時に、Best ではなく better な結果に落ち着くのもよくあり、本人と支援者間で信頼関係が保て、関わる人皆に共通の情報があれば、本人が望む幸せを見みつけた関わりは続けられ、わだかまりの残る間違った支援になるのを防ぐ事ができるのではないかと思います。精神保健福祉士としての私に大事なものは、その過程にどれだけ寄り添えているかであると、岩上さんの講義を聞いて考えました。

余談ではありますが、2週間ほど前に腰のヘルニアが悪化したため、元々、箸より重たい物がもてないようになっている体が、余計にデリケートになり、まるで精密に加工された美しいガラス細工のような体になっていましたが、責任感のある私は会場係を真面目に行いました。僕の体を心配してくれたのは笹木さんだけでした。笹木さん、心配をしてくれて、ありがとうございました。でも ぼそっと「おじいちゃんなんだから」といわれたのも覚えています。忘れません。

2014年9月 フェスPバル

日 時：平成 26 年 9 月 20 日(土) 12:00～

場 所：美々ビーチ

参加対象：P 協会会員、その家族、学生、その他関係機関

参加者：100 名ほど

【企画の趣旨】

沖縄県内の精神保健福祉分野で幅広く活躍する専門職及びそれを支える家族、将来の精神保健分野での専門職を目指す学生を対象としたネットワーク作りの場として、沖縄の自然を感じられる場で語り合う機会を設けたいと思い今回のイベントを企画した。顔の見える関係作りや専門職種として様々な世代と交流を持ち、日常の業務だけではない楽しみながら繋がりを作っていきたい。また普段、我々を支えている家族を労い、共に楽しめる場としても利用していきたい。今回は精神保健福祉士を目指す学生も共に企画段階から楽しみながら共同し、専門職を目指すモチベーションにしていってもらいたい。沖縄精神保健福祉協会の「まじゅん」精神を楽しみながら実践していきたい。



～会員の皆様へ 会費納入のお願い～

☆ 会費口座引き落としの手続きはお済みでしょうか？まだの方はお早めに手続きをお願いします。

★お便り大募集！！★

会員の皆さまからの情報・報告・投稿・作品(詩やエッセイなど何でも!)をお待ちしています。
また、当協会へのご意見・ご要望などお寄せ下さい。送り先はP SW協会メールへお願いします。